



伊藤 里 (いとう さと)

第14回にいがたマンガ大賞中学生部門で奨励賞を受賞。

2次審査員の講談社なかよし編集者の目にとまり、まんがスクールに投稿。

シルバー賞を受賞し、13年、「とある猫かぶり少年の秘密」で同誌26年ぶり最年少読み切りデビュー。

2019年7月号より、同誌にて「千紘くんは、あたし中毒。」連載開始。

■スタート～マンガ家になるまで～

—— マンガ家を目指したのはいつ頃ですか？

中学生の頃です。

—— その頃、影響を受けた作家や作品、または印象に残っている作品があったら教えてください。

ジャンプなどの少年漫画の絵が好きで、よく模写していました。少女漫画では持田あき先生の描く雰囲気が好きでその頃から憧れていました。

—— 中学の時にマンガ家としてデビューされましたが、それによって生活が変わったことや同年代のご友人と比べて違うと感じた部分などはありますか？

人間関係はあまり変化しませんでした。周りの人の行動を観察したり、生活の中で常に漫画にできるようなことを探すようになりました。

■今の創作活動について

—— 普段編集者の方とはどういう風に打ち合せするのですか？

実際に会って話すことより、電話でどんな話にするか話し合っ決めて決めることが多いです。お互いに「こんなシーンがあったら面白いよね」という感じで案を出し合っています。

—— 作品を創作するにあたって、最も気を付けていることは何ですか？

読者の方が読んでいて楽しく、退屈しないような話にすることです。

—— デビュー当時と比べて、自分で成長を感じる場所はありますか？

漫画を描くことが楽しくなりました。

■作品『千紘くんは、あたし中毒。』について

——「なかよし」の読者は主に小学生のようですが、マンガを創作される時、読者を意識して描くために気を付けている点などがあれば、教えてください。

絵として印象に残るシーンを入れたり、読んでいて憧れる話になるように気をつけています。また、大人の方が読んでも楽しめるようにするため、モノログが薄っぺらくならないよう意識しています。

——ファッションデザイナーを主題にした作品ですが、衣装やアクセサリなど、特に参考にしたものはありますか？

海外のファッションやトレンドの服、街で見とおしゃれだなと思ったコーデなどを参考にしたりします。

——デビュー当時、新潟日報のインタビュー記事で「ファンタジーなど少女マンガ以外のジャンルにも挑戦したい」とおっしゃっていましたが、その後、何か手がけたジャンルはありますか？あるいはこれからチャレンジしたいジャンルはありますか？

漫画として完成させたものはまだ無いですが、ファンタジーや日常ものなど案はいくつか考えたものがあります。少女漫画はどうしても読者層が限られてしまうので、誰もが感動したりワクワクできるような冒険の話や異国を舞台にした話を描いてみたいです。

■ラスト～「マンガ家」という職業について～

——マンガ家になって辛かったこと、楽しかったことや嬉しかったことは何ですか？

描きたいものが求められるものとは限らないこと、うまくいかない時も「漫画を作らなければ」という使命感に襲われることは少し大変かもしれません。受け取ってくれる読者がいて、自分の作った話を読んで憧れたり感動してくれたり、誰かの生活の一部になれるということはすごく嬉しいです。

——マンガ家を目指している方へのアドバイスをお願いします。

マンガ家は沢山の人にメッセージを届けられる素敵な仕事です。話を作るためのアンテナを張っておくことと、あとはマンガ家になるには人に読んでもらうのが第一歩なので、編集部の人に見てもらったり SNS に上げてみたり、漫画を描いたらぜひ自分の作品に旅をさせてみてください。



—— このインタビューの読者へのメッセージをお願いします！

読んでいただきありがとうございます！面白い漫画が世界に溢れているのはとても素敵なことだと思います。読むのも描くのも沢山の人が楽しんでもらえたら嬉しいです。